



Earth Rise

No. 2 5

平成 26 年 2 月 16 日(月) 発行

矢掛高校の活動や地域の様子・E S D
等について発信していきます。

岡山県立矢掛高等学校長 川上公一



矢掛こども連合・Y K G 6 0

Re:アート プロジェクト

2月24日矢掛こども連合による『Re:アートプロジェクト』が、旧「三宅木工所」で開催されました。「矢掛町に落ちているゴミを無くしたい」と7月から活動を開始。小中高校生が協力して企画・運営し、毎月様々な取組を行いました。拠点は矢掛高校ユネスコサロン・フォレスト。そしてその集大成が今回の「ゴミについて考えてみるワークショップ」です。会場は、現在使われていない旧「三宅木工所」の空き店舗です。木工所ですから、広いタタキ土間がありワークショップには最適です。事務所としている座敷の、窓を開けると外のお客さんと談笑できます。まるで昭和の駄菓子屋のよう。建物にはまったく手を入れていません。こどもたちにとっては「秘密基地」。恐る恐るのぞきこんでみます。

ワークショップでは、おしゃれなハッピーシェアカンドルと空き缶オブジェをつくりました。ゴミの気持ちをつぶやく“Gomitter”や様々な掲示物など、少しでもゴミを減らすための情報発信でした。この日のためにコマーシャルを自分たちで制作。矢掛放送と交渉してとうとうテレビで流していただけました。

もちろん今回のイベントで大きく状況が変わるわけではないことを、こどもたちはわかっています。地域に対して自分たちの力で動き出したことが大きい自信につながっています。これからが楽しみです。

イベントの合間には、小中高校生がいっしょになって遊びます。大人は見てるだけ。ゲームもスマホもここでは遊び道具になりません。とうとう小学生の女の子が高校生のお兄さんを相手に鬼ごっこを始めました。



座敷は会議・おしゃれやくつろぎのスペース



タタキでは作業やワークショップができます



なにか懐かしい空間です。空店舗の外観がなじんでいます

こどもの声が響き、こどもが走り回る。ときにはお年寄りがこどもを叱る場面も出てくるでしょう。それが本来の活気ある街並みです。異年齢の集団を組織することで持続発展可能な教育を実現させるとともに、活動を通して地域に貢献する意識をもった人材を育成していきます。そして、結成1周年。YKG60は、次のステップに進みます。